

報告者：久木留 毅（文学部教授）

■ラフバラ大学研究拠点活動報告 No.5

5月2日(木)

■国際協力機構(JICA)所長中村浩孝氏とのミーティング

JSC ロンドン事務所の新しい方向性として、他独立行政法人との連携について情報収集。

JICA ロンドン事務所を訪問し、今後の可能性についてスポーツと国際交流・貢献という視点で自由に話し合いを持った。ポイントは、スポーツ基本法、在外事務所の活用、ラフバラ大学、ヨーロッパおよび世界の中での英国等であった。今回をキックオフとして、今後も引き続きミーティングを持っていくこととした。



5月10日(金)

■ラグビーの David Morris (Head Coach) とミーティング

■「NIKE ACADEMY」(サッカー)について調査

ナイキアカデミーは、イングランドプレミアリーグとナイキが共同でプロ選手の育成をサポートするプログラム(2009年6月設立)。2年前より拠点をラフバラ大学に移行した(ただし、学生で入っている者はいない)。現在、約22名が所属している。大学内スポーツ施設の使用、メディカルケア等の受診も可。



5月11日(土) — 12(日)

London British Open Judo Championships

場所: K2 Crawley (Pease Pottage Hill, Crawley, West Sussex)

ロンドン南部で開催された柔道の国際大会を視察。VIP 待遇で迎えてくれた Colin McIver, Joyce Heron に感謝。また、専務理事から現場のトップまで様々な話を聞くことができた。柔道(IF) は After 2012 オリンピックにおいて、様々な取組みを実施していることが理解できた。また、英国内の取組みにおいてもコーチ制度プログラムやそれを評価する団体があることについて等、様々な情報を聞くことができた。



報告者：久木留 毅（文学部教授）

■まとめ

日本としては、日本スポーツ振興センター(JSC)を始めとして独立行政法人の各事務所の活用について、ロンドンおよび東京のスタッフらと話をもち実情と可能性に関する情報を提供していくことが重要と考える。今回、新たに JICA との連携について中村氏とミーティングを持つ機会を得たことは大きな一歩である。しかし、あくまで一歩でありこれを具現化していくには様々な課題を明確にしていく必要がある。

柔道の視察から、他競技から学ぶ必要性について改めて自覚できた。持っている情報に生きた情報を加える事で新たに見えて来るものがある。また、分析ソフト DARTFISF を介して映像情報を収集していたが、これらの映像はヨーロッパ諸国と共有しているとのことであった(もちろん逆もある)。現場のニーズもあるため一概に言えない面もあるが、世界の中で共有圏を作っていく戦略は必要であり、共有国、共有圏を作った後に何を共有するかも同時に考えていく必要があることを改めて考えさせられた視察であった。